

(別紙) 応募用紙「土木広報大賞 2021」

団体名：九州日東株式会社			
応募部門 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> イベント部門	<input type="checkbox"/> 映像・メディア部門	<input checked="" type="checkbox"/> 広報ツール・アイテム部門
	<input type="checkbox"/> 教育・教材部門	<input type="checkbox"/> 商業広告部門	<input checked="" type="checkbox"/> 企画部門

土木広報活動または作品名：対話で創るドボクの未来

広報活動または作品の概要

当社・九州日東(株)は、建物の基礎工事の施工会社であり、自社で杭打機をはじめとした重機を保有し、職人を抱えながら施工（事業）を行っています。

当社は、創業者である榎 敏男が関西の建設工事会社（基礎工事会社）で培った経験と人脈を活かして故郷の福岡で1976年、65歳で会社を設立しました。現在は2代目の榎博史が代表を務めており、現在3代目への事業承継を進めている最中です。

創業時から研究開発に積極的で、工法や施工部材等の技術開発を行いながら、主に基礎工事の現場管理を行う会社として歩みをスタートさせました。次第に自社で機械（杭打機等）を保有し職人を抱えて施工を行うようになり、現在では大型杭打機4台を保有し4チームを動かしながら大手ゼネコン等の下請け会社として施工（事業）を行い、建物・施設など社会インフラ等に必要不可欠な基礎工事の施工を行っています。従業員は現在35名です。

当社は、九州の基礎工事業界において、新しい工法を開発するなど、研究開発の歴史があり、また、創業期のメンバーは離職率が非常に低く、そのメンバーがこれまでの会社の歴史を作ってきました。

しかし、時代は移り変わり、社員・職人の価値観が多様化し、新たなメンバーが増える中、今のコミュニケーションのあり方では会社を存続させていくことに限界があり、また、これまで培ってきた技術や伝統を次世代に引き継ぐためにも、会社内のコミュニケーションを促進し、職人同士の対話を活性化する必要があります。これらのことを背景に、当社は昨年1月に全社員で集い、会社の将来、ひいては建設業の将来について話し合う「対話の場（安全大会）」を開催しました。

（同企画の）開催前は、「今の状態で職人が集えば絶対ケンカになる」「集まっても誰も話さない」といったマイナスな意見が多数を占めました。原発の問題に関する東電と福島の住民の話し合いの場のファシリテーターを務めるなど、全国で話の促進役（ファシリテーター）として活躍する山口寛氏（元・鹿島建設）の協力もあり、当日は世代や立場、価値観を越えて、多様な意見やアイデアが出ました。今回はこの「対話の場（安全大会）」の企画（＝企画部門）と、その活動を社内外に広報する「社内報」（＝広報ツール・アイテム部門）を土木広報大賞に応募させていただきます。





広報活動または作品の効果

広報活動、作品の効果としては、「対話の場（安全大会）」を開催したことにより、会社の従業員がただの一社員としてではなく、それぞれが会社（建設業）の将来を担う当事者の一人としての意識が向上したともに、場を設けて話し合いを行うことの大切さを会社全体としても共通認識として持てたと感じています。

また、今回応募する内容については、一会社の社内イベントに感じる部分もあるかと思いますが、「対話の場（安全大会）」を開催するにあたり協力頂いた山口氏との振り返りの言葉にもあるとおり、世代や立場、価値観を越えて、多様な意見やアイデアが出すことができたこの企画は人手不足、建設業の技術継承問題など、様々な問題を抱える建設業の将来にいい影響を与えることのできるきっかけ、種を植えることができたのではないかと考えております。

企画開催後は、すぐにコロナの感染拡大が訪れ、皆が集い話し合いを行う場を行うことができないといった厳しい局面を迎えることになりましたが、コロナ収束後は再び“場”を設けて、建設業と会社の発展に寄与できる動きをとり、その動きを効果的なものとすべく、広報（情報発信）と行っていきたいと考えております。

このような取り組みを少しでも広げていくため、今回の「土木広報大賞」において当社の取り組みを少しでも取り上げていただけると幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

安全で楽しく働くことを
一緒に考える

～ 九州日東 安全大会 ～

山口 覚氏

フシリリーダー（語の促進役）

講師プロフィール

1999年、鹿島建設入社。鹿島建設時代は、大規模開発等のプロジェクトに携わる中、業務を円滑に進めるため「互いに言い合い」を旨とする環境が人切」と感じ、話し合いの手法を学ぶ。2002年に退職し、現在、LOCAL&DESIGN株式会社代表取締役。深会と市民、先生と養護者、開発業者と地主者、最近では東京電力と福島の住民など、話し合いの場づくりを全国で行っている。泳艇クラブ代表、一級建築士。

【応募者プロフィール】

今回の土木広報大賞の応募者である私（榎真一）は、九州日東（＝父の会社）に入るまで、市役所とベンチャー企業、大学機関と、様々な業界で社会人経験を積んできました。

特に市役所ときは、広報を5年間担当し、当時新設された観光まちづくりを1年間担当し、貴重な経験を積むことができました。

これらの担当で、まちづくりを担いながら、広報活動を行ってきた経験をこの会社や業界で活かしていきたいと考えております。今後も広報活動には力を入れていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。